

令和6年度 第32回倉敷ケーブルテレビ番組審議会 議事録

1 開催年月日 令和7年3月12日(水)

2 開催場所 株式会社倉敷ケーブルテレビ 1F セミナールーム

3 委員出席

委員総数 10名

出席委員数 4名

出席委員名

伊東香織 倉敷市長 代理書面／くらしき情報発信課 課長 安藤俊晴

柴田義朗 玉野市長 代理書面／秘書広報課

片岡聡一 総社市長 代理書面／市政情報課

仁科康 倉敷市教育委員会 教育長

井上峰一 倉敷商工会議所会頭 代理／専務理事 坂本万明

尾崎茂 児島商工会議所会頭 代理書面／総務課長 細羽浩平

清水男 総社商工会議所会頭

欠席委員名

山根一人 玉野商工会議所会頭

那須浩嗣 児島青年会議所理事長

榊原浩太郎 倉敷青年会議所理事長

放送事業者側出席者名

伊藤享 代表取締役社長

佐野真洋 常務取締役

山本健太郎 取締役

樋上康宏 取締役

八幡聡 放送制作部長

事務局

水野雄介 放送制作部広告企画営業課長

岡村祐紀 放送制作部報道制作課長

藤中宏充 放送制作部メディア編成制作課長

藤原崇 放送制作部番組制作課長

4 議 題

<番組審議>

▽「歌い継げ！下津井節 ～風待ちの港に吹く新風～」

※資料1 【DVD1枚】

<報 告>

▽2024（R6）年度自主制作番組 実績

▽2025（R7）年度番組編成

5 審議内容

◆「歌い継げ！下津井節 ～風待ちの港に吹く新風～」

【仁科康 倉敷市教育委員会教育長】

下津井という地区は現在子供の少子化、少子高齢化ということで学校の統廃合をすることが決まっており、その関係で地域の方とも関わりを持つようになり、色々協議をしながら新しい学校の学習内容や中身の問題を協議していく中で感じたのは、下津井らしい地域の特性を生かした地域と共生する子供を育てていきたいという思いだった。

そういう意味で下津井を取り上げて頂いて、しかも町おこしということで一生懸命取り組んでいただいた。子どもにとっては非常にタイムリーな内容で、担当者がこの地域のことを調べているがまだまだ勉強不足で、この番組を見させていただいて、非常に地域を挙げて盛り上げていこうという雰囲気があった。

下津井は江戸時代から北前船で栄えたところだったが、人口がどんどん減り現在 4000 人位になっている。学校、子どもたちが減少している状況の中でいかに地域を盛り上げるか、応援していくかという点で、今回のこの番組を作って頂き大変有難かった。

文化継承の活性化について、今後は中高生に少しでも交流スポーツ産業や文化等に興味を持ってもらい、地域の大切な文化を継承し次の世代へ受け継いでいってほしい。そのためには社会教育と学校教育の融合が大事で、地域でこういう活動をしっかりやっている方とのつながりをしっかり持ちながら子どもたちを巻き込んで、次の世代に継承していくような地域一体となった生涯学習に取り組んでいくという意味で本当に参考になった。

【井上峰一 倉敷商工会議所会頭】代理／坂本万明 専務理事

今回の番組は以前からのニュース取材の内容を断片的に繋ぎ合わせる制作方法。

今倉敷の祭りは倉敷商工会議所が中心となっている。100 年以上前から屏風祭りが始まり、

一時期衰微したが現在復活している。中心市街地活性化にお祭りは必要である。
提案だが、富山県で開催されるおわら風の盆を参考に見てみたいのではないかと。
屏風祭りの中で提灯を飾り下津井踊りを踊るのもいいのではないかと。経済効果とか、交流人口を増やす、少子化、人口減少ということはやはり非常に重要なコンテンツで、ひとりの女性が今考えていることで街を巻き込んで中心を形成するところまで対応し、彼女の継続していく、継承していく、100年先まで続けるという決意そういうものに意味があると思う。お祭りをするすることで、その地域の活性化を図り、人口の流通を増やしていくという意味では重要であるし、倉敷と同じ位に結びつけて連携していくという橋渡し役などもできる。地域おこし協力隊員の地域おこしでより多くの人を集める根拠になる。そういうものがきっかけになるということで、私は祭りは構造上の分岐点となって、それを地域の方に理解してもらい、あるいは自らは後継者を出してマネジメントしていただいて、そういう人をつくり上げていくというところで、それについて第2の屏風祭りと言っても過言ではない。地域を活性化させて、人口を増やし、また歴史とか文化を継承していく、すごく大きなミッションだと思う。地道に密着して取材していたのは素晴らしいと思う。今回宿題も幾つかあったが、ぜひこの後も継続的に続けて次に伝えるということをお願いしたい。

【清水男 総社商工会議所会頭】

私自身、下津井節は全く知らなかった。下津井節を最初から最後まで流して欲しかった。下津井節の全体が良くわからなかったので、1曲続けて流して欲しかった。その地域の実情を知らない人にはわかりにくかったのではないかと。下津井節がいつ始まったとか、歴史的なものもそうだが、誰が始めたのかということ詳しく説明して欲しかった。下津節の説明に欠けていた内容だった。また、私個人としては踊り方の指導を子供にしているところ流して欲しかった。ニュース番組の継ぎ合わせたという感じが残った。

【伊東香織 倉敷市長】代理書面／安藤俊晴 ぐらしき情報発信課課長

30分番組ですが、ずっと引きこまれて視聴できました。
最初、ナレーションが落ち着き過ぎているのかと感じましたが、丁寧に取材して思いを伝えている番組を見ているうちにしっくりきました。
下津井節や下津井宵あかりのことは知っていましたが、イベントの背景や関係者の思いなどは全く知りませんでした。
津本さんの思いを、活動を懐かしい映像を交えつつ、丁寧に取材して追いかけていたところは、地元ケーブルテレビ局ならではの感じました。
下津井節を残したいという思いをきっかけとして、外部の人も楽しめるような、今どきの映えるイベントという仕掛けにし、世代を問わず地域の人を巻き込み、自分事にしていく様子は素晴らしいやり方だと思いました。祖母から孫へ伝えていく様子もあり、このような映像番組として記録・放送することでさらに地域の人に広く伝えることができ、おそらく全国のケ

ーブルテレビでも放送していると思いますので、広く他の地域を元気にする取り組みの参考になるのではないかと思います。地域の応援になっている番組だと感じました。

【柴田義朗 玉野市長】代理書面／秘書広報課

題材として、古くからある文化を現代にもつなぐという内容は、大切だと思うので、良かった。

特に、つなぐというテーマにもあるように、今後を担う子どものインタビューがたくさんあったり、祖母から孫へ受け継がれたりする様子があったりと、今後も希望を持てる内容で良かった。

また、地区全体で取り組んでいて、地元にも観光客にも受け入れられる大切な文化ということが伝わった。

気になったのは、全体的にインタビュー以外の場所が字幕が少ないと思ったことと、全体としてのタイトルが「歌い継げ」でしたが、踊りについてもピックアップされていたので歌も踊りも含むタイトルの方がより伝わると思った。

11:47 字幕が「携って」でしたが、「携わって」ではないでしょうか？

23:17 字幕が「きょう」になっているのは意図的でしょうか？

【片岡聡一 総社市長】代理書面／市政情報課

・地域の宝を守り未来へ残すとともに、町おこしにもつなげようと尽力する人々の 熱い思いが伝わってきました。

・「機会があったら踊ってみたいと思っていた」、「踊ってみると楽しかった」など、イベントに踊り手として参加した地域住民の前向きな声が印象的でした。

伝統文化というと敷居が高く感じがちですが、地域住民や幅広い年代などを積極的に巻き込み、楽しさを次の世代に伝えることが、伝統文化の保存・継承につながる のではないかと感じました。

・下津井節を知らない人への PR はもちろんのこと、地元の視聴者にとっても新たな発見がある内容だったと思います。

【尾崎茂 児島商工会議所会頭】代理書面／総務課長 細羽浩平

・民謡下津井節についての解説が分かりやすく、理解が深まる構成であった。歌詞の解説もあり、より関心をもつことができる内容であった。

・下津井の街の過去と現在の情景の写真が多く使われており、街の変遷がイメージしやすかった。

・ナレーションの声も聴きやすく、分かりやすかった。

・地域の文化を残していくことの大切さが良く分かった反面、その担い手不足の問題提起という側面からの今後について、考えさせられる内容であった。

- ・つなぐプロジェクトの一環として、下津井宵灯り事業の紹介が良かった。伝統文化の担い手不足や育成（踊り練習など）は全国共通の課題であるが、その取組の1つとしての紹介がこの動画で行うことが出来るのではないか。大人や関係者だけではなく、若い世代・子どもも一緒になって練習や準備を行っている様子は、課題解決への1つの提起として大変有効なことであると感じました。
- ・地元10代の水田彩楽（さら）さんをはじめ、動画最後に地元の子供たちが、地域の伝統文化は特別なものではなく、身近にあるものであるという感覚に変わったというインタビューがあり、今回のイベントの目標でもある100年後に残すという目標に一步近づいているという内容で締めくくるところが観る側に分かりやすく伝わった。

◆2024（R6）年度 番組等について 意見・感想

【仁科康 倉敷市教育委員会教育長】

この30分の中にまとめるというのは非常に難しいと思いますが、下津井のことを知らない人も多い。暮らしの中で知られていないということがいっぱいあるのではないかなと思う。倉敷のいわゆる日本遺産である地域の文化は実は北前船で下津井も繋がりが、そういった歴史的なものであるとか、下津井節の曲は歌詞の中で普通の言葉として言われているのと違う意味の言葉があると思うが、説明されていて良かった。

こういった番組で子供たちが自分たちの住んでいる地域を知って、歴史があるとか素晴らしいことがあるという事を発見して、しっかりと伝えていけるようなことが繰り返されいろいろな展開があればいいと思う。

【井上峰一 倉敷商工会議所会頭】代理／坂本万明 専務理事

番組に関して、防災・天災、歴史（お城・古墳）等を丁寧に取り上げて、地域に伝えていく事が大事。地域の地域愛を育てる、育むというのは大変重要なことだと思う。

小学校6年生、5年生の地域の宝を発見する新聞を発行する宿題で、自分の地域でどういった宝があるのかを調べ、タブロイド紙を作るという事で郷土愛が育まれる。現在は地域に残る大学生は全体の16%しかいない。市立短大が新しくなる計画があるので、学生たちに地域の事を知ってもらい、学生と連携してプロジェクトの活性化を図り、KCTが提案して地域活性の番組を企画して欲しい。

【清水男 総社商工会議所会頭】

現在は防災についてBCPを作っており防災を中心に活動している。それが素晴らしい、参考になったという声が出て、毎年防災について話をしている。まず、自分の家の標高を調べどうやって逃げるかを考える。逃げるのが一番で、逃げ遅れたら2Lのペットボトルと紐を持って逃げる。今求められていることはいかにして助かるかということである。

A. 【八幡聡 放送制作部部長】

KCTの基本理念に基づき地域の事を取り上げる新たなチャレンジで、今まで学んできたことを30分にまとめた。私も含め、下津井を知らない人が見たときに、最初のところがわかりにくい感じがした。視聴者目線で番組構成をしっかりと検討して制作しないといけないと改めて感じた。地域の皆さんを沢山紹介できたのは良かった。

皆さんから頂いたご意見をしっかりと次へ展開し今後の番組作りに活かしていきたいと思う。

A. 【伊藤享 代表取締役社長】

今回この番組を制作したのは入社5年目の者で、ナレーションを読んでいたのは一番古い入社40年目の女性社員。番組審議会も32回目というところで100年の3分の1でこの下津井踊りが続いたのはすごい価値がある映像だと思う。日々こういった取り組みを通して地域の映像を残すというのが我々の使命だと思う。

ご意見の中で、仁科教育長から、子供たちの地域の伝統を繋ぐというメッセージ、これはもちろん取り組んでいる。清水会長からは、防災に取り組むというところで、起きた時の対応を心がけていきたいというのがという方向で進んでいる。坂本専務理事から取材を通して地域活性化につながるイベントへ繋げていくという事で、時間軸を確認し外回りを踊る姿を想像したら面白いと共感できるものがあった。今後、そういったことを認識して、番組制作に取り組んでいけたら、地域活性化になると思う。

6 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法 倉敷ケーブルテレビホームページ

公表の内容 審議内容抜粋

公表年月日 令和7年4月1日(火)～